

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

## I 自己評価

岐阜県立東濃高等学校 学校番号 39

1 学校教育目標	知・徳・体の調和のとれた将来有為な人材を育成する。
2 現状の分析	<p>○ 入学後、生徒は年次を重ねるごとに、生活や学習等の取り組みに対し改善が見られつつある。</p> <p>○ 積極的に自ら、挨拶をしたり、時間を守ったり、ボランティアに参加したり、将来の目標を設定したりすることのできる生徒数が増えている。</p> <p>▲ まだまだ基礎学力が定着していない生徒がおり、義務教育段階の学習内容の復習や学び直しを指導する必要があると見られる。</p> <p>▲ 基本的な生活習慣や規範意識が十分に確立していないため、進路変更せざるを得ない生徒が存在する。</p> <p>▲ 自分自身の良さや課題を客観的に捉えることや社会に出て働くための人間関係づくりが苦手な生徒（特に1・2年次）がいる。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎学力の定着並びに授業のユニバーサルデザイン化のさらなる推進</li> <li>・ 基本的な生活習慣の確立と道徳心の育成</li> <li>・ キャリア教育とコミュニケーション能力のさらなる育成</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	◇ 少人数コミュニケーション講座の実施（平成31年度）に向けた具体的な計画立案とその体制作り、並びに学習指導やキャリア教育プログラムにおけるアクティブ・ラーニングを取り入れた取組の充実

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
学習指導・教科指導の充実	①「評価の可視化」「加点法」によりどの生徒にも授業の取り組みが分かる授業を実践し、「授業のユニバーサルデザイン化」により落ち着いた雰囲気の中で成果が表れる授業を行う。	①生徒及び教員による授業評価・（肯定的評価70%）	①各教科・科目における『授業評価カード』を活用した「評価の可視化や加点」を行い、生徒自身による授業への取組姿勢の確認や授業時における基本事項のチェック並びに、授業での意見提示・発言内容等の確認と評価に十分役立てた。また、各教員が生徒による授業評価と教員自身の授業評価を分析し、授業の改善・改良に取り組んだ。達成状況は、肯定的評価が生徒・保護者とも70%以上であった。	B	○意欲的に授業に取り組む生徒が増え、授業に参加する姿勢や授業規律を遵守する態度の確立に繋がった。 ▲『授業評価カード』を活用した授業からカードが無くても積極的かつ能動的に授業参加できる学習支援法を研究しつつさらなる「授業のユニバーサルデザイン化」を行う。	B
	②「地域づくり類型」の授業において、御嵩町や地域の諸機関等と連携・協力し授業を展開する。また、御嵩町の援助による防災士の取得の推進を行う。	②「地域づくり類型」のアンケート・（生徒の満足度70%）防災士取得・（取得率100%）	②御嵩町との連携を十分に行い、「ふるさと教育」実践校として、岐阜県ふるさと教育表彰優秀賞を受賞した。生徒の授業評価による満足度は、100%であった。また、防災士取得率については、62.5%であった。	B	○御嵩町の地域課題考える「学習報告会」では観光分野を取り上げ、生徒の視点での解決のための提案を行うことができた。	
	③全校生徒の20%以上を占める外国人生徒に対して、「日本語」の授業を行い、学習支援を行う。	③日本語能力を測る検定試験等の実施と漢字の読み書き指導の実施。	③日本語能力検定試験を受けた生徒無し。漢字学習や日本語（科目）については、生徒の習熟度を考慮しつつ十分対応できた。	B	▲検定等の取得や、生徒が主体的に日本語（漢字学習を含む）に取り組むように、さらなる支援を強化する。	

	④「平成31年度少人数コミュニケーション講座」の実施に向けた研究・研修を十分に行い、生徒のニーズに応じた支援計画を作成する。	④自校通級による「平成31年度少人数コミュニケーション講座」の完成。	④自校通級実施に向けた「ブレ講座」の実施を十分に行うとともに、「平成31年度少人数コミュニケーション講座教育課程」の完成に至った。	A	○個別の支援計画を含む「平成31年度少人数コミュニケーション講座」が完成した。
生活指導・特別活動指導の充実	①「あじみのできる学校」をキャッチフレーズにあいさつの励行、時間を守る行動、身なりを正すことを大切にし、身なり指導やマナー指導を実施し、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を目指す指導・助言を行う。	①学校評価による確認・（肯定的評価70%）	①アンケートにおける肯定的評価は、生徒・保護者とも70%以上であった。	A	○挨拶のできる生徒や授業に遅れないように努力する生徒、ボランティア活動に積極的に参加する生徒が多数いる。 ▲一部の生徒の遅刻を減らす努力を、根気強く行うとともに、全職員の共通理解のもと徹底した生活指導等を継続する。
	②全職員が共通理解のもと、「見逃さない同じ指導」を行う。	②生徒対象アンケートと校門指導を行う保護者への聴取・（肯定的評価の有無）	②アンケートにおける肯定的評価は、生徒・保護者とも79%以上であった。	A	
	③部活動・ボランティア活動を活性化し、活気と思いやりのこころを育成する。	③ボランティア参加人数・（のべ300人以上の参加）	③のべ410名が、ボランティア活動等で地域に貢献することができた。	A	
コミュニケーション能力の育成とキャリア教育の充実	①演劇ワークショップや、キャリア教育プログラムにより、コミュニケーション能力を育成し、望ましい人間関係を構築する。	①講師及び見学者への聴取・（肯定的評価の有無）	①肯定的評価が非常に多く、生徒のコミュニケーション能力の育成に効果があると評価が非常に高かった。生徒の95%が肯定的評価をしている。	A	○キャリア教育として進路意識を具体的にイメージすることのできる生徒が徐々に増えてきている。 ○生徒のコミュニケーション能力の育成に大変役立っている。 ○各年次の継続性や繋がりを意識しつつ、外部機関と十分事業内容を検討することで、更なる生徒のスキルアップに反映することができた。
	②進路ガイダンス等により、進路目標を具体化し、望ましい勤労観・職業観を育成する。	②学校評価による確認・（肯定的評価70%）	②肯定的評価について生徒83%、保護者71%であった。	A	
	③御嵩町役場や、国際たくみアカデミー等との連携による、外部人材の活用により、進路目標実現に向けてのスキル習得を目指す指導を行う。	③活用回数10回以上	③活用回数16回 ・職業別講座、進路見学会、キャリア教育プログラム（9回 1年）・模擬講義、企業展、進路懇談会（4回 2年）・専門学校等進学相談会（1回 3年）・外国籍生徒向けライブプラン講座（1回）・ハローワークによる就職者面接指導（1回）	A	

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成31年1月23日

12 来年度に向けての改善方策案

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍生徒への日本語指導等の取組が、地域として大変重要である。</li> <li>・御嵩町の協力による防災士取得の取組をはじめとし、御嵩町や可児市、地域の企業との連携を通じて、地元に残る人材の育成が図られていると感じる。</li> <li>・社会人講師等の登用も含め、さらなる部活動の活性化を望む。</li> <li>・生徒の活動内容や学校の取組についての広報活動として、「月刊東濃高」の発行が非常に有益である。</li> <li>・生徒が、資格取得等を含め様々な物事に対し、より主体的かつ積極的に取り組むことや、遅刻・欠席の減少へのさらなる指導強化を望む。</li> </ul>
--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あじみができる東濃高校」（挨拶の励行、時間を守る、身なりを正すこと）を教育指導の重点と掲げ、平成31年度も基本的な生活習慣のさらなる確立と規範意識の向上を目指す。</li> <li>・外国人生徒、発達障がい等を有する生徒等の指導を充実させるために、外国人生徒連絡会や教育相談・発達障がい連絡会等で定期的に情報交換を行い、合理的配慮を加味した個別の支援計画に沿った生徒指導等を適切に実施し、学校の活性化に繋げる。</li> <li>・生徒のコミュニケーション能力の育成に関わり、1年次、2年次、3年次の各授業やキャリア教育プログラム等においてアクティブ・ラーニングのさらなる取組を実施する。</li> </ul>
--